

公益財団法人8020推進財団

平成27年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：「食」と「健康」にかかわる多職種連携・協働による食育推進事業（その2）小学生への味覚教育の取り組み

2. 申請者：一般社団法人 甲府市歯科医師会

3. 実施組織：一般社団法人甲府市歯科医師会 甲府市役所健康衛生課 山梨県栄養士会 山梨県調理師会 山梨県歯科衛生士会 中北保健所 昭和大学歯学部口腔衛生学教室 山梨学院短期大学食物栄養科 新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食・嚥下リハビリテーション学 ムカイ口腔機能研究所 千塚小学校

4. 事業の概要：日本歯科医師会と日本栄養士会は、「健康づくりのための食育推進共同宣言」を発表し、それぞれのライフステージに合わせた食育の推進が重要となっている。子どもの好き嫌いや味覚の発達は幼児、小学生のうちに発現する。フランスの味覚教育では、小学生に子どもたちの感覚（味覚）を言語表現によって引き出すことにより、味覚が鋭敏になり、その鋭敏になった味覚が言語表現をより豊かにするという、感覚と言語との相乗効果を目指すことを一つの柱としている。今回の事業では、幼児期には難しかった言語表現による味覚（五感）教育の展開を、小学生を対象に行い、食事をする際に、まず見て楽しみ、香りを味わい、陶器や漆器などを唇に触れ、それからしっかり噛んで風味を味わい、噛みごたえのある物性の食べ物を咀嚼する音を楽しむことの重要性を教育すると同時に、日本の子どもが五感で感じた表現しやすい言語を探索し、整理してみたい。

5. 事業の内容： 1. **食育推進運営協議会**：多職種（歯科医師会・歯科衛生士会・栄養士会・調理師会）の連携・協働のために、健康づくりのための食育推進に対する意思の疎通を図るとともに、過去4年間の幼児期における味覚教育の効果・反省点を基に、新たに小学生に対する味覚教育の実施内容・回数等を検討する。 2. 小学生に対する食べ方・噛み方など食習慣等に関する**調査**。味覚教育の前後に、小学生とその保護者に対し食習慣等に関するアンケートを行い、小学生とその保護者の「食」と「健康」に関わる実態と意識を分析検討する。 3. **味覚教育の実践**。小学生を対象に、しっかり噛んで、おいしく、楽しく食べる観点からの効果的な味覚教育を試行、実践する。特に幼児期には難しかった、言語表現による味覚（五感）教育の展開を図り、モデル事業として報告する。

6. 実施後の評価（今後の課題）本事業により、まず五感を意識しながら食べることで、食品の特徴を感じるにより、言語表現の幅や語彙数が増加することが分かった。教育前は味覚表現が大半を占めていたが教育後には味覚以外（嗅覚・視覚・聴覚・触覚）の表現を用いる割合が増加した。五感を意識させたことで表現の幅が味覚のみに偏らず他の感覚も用いて表現できるようになったものと考えられた。また普段食べている給食についてもこれまでと異なった視点での食事をしたことから、単一感覚のみでなくバランスよく五感を用いて表現できたものと考えられた。食物を五感を用いて食べ、それを言語表現することを教育現場で楽しく実践していくことが新たな食育展開の一助になるであろう。今後も本事業では小学生を対象としたこの様な取組を継続していく予定である。